

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：国際共同研究加速基金（帰国発展研究）

研究期間：2020～2022

課題番号：18K19956

研究課題名（和文）山鹿流兵学関連書を用いた近世武士道論の歴史的研究

研究課題名（英文）A Historical Study of Early Modern Bushido Theory Using Books Related to Yamaga-school Military Science

研究代表者

中嶋 英介（NAKASHIMA, EISUKE）

東北大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：40838108

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：近世日本の兵学は流派別に数々の兵学書が成立した一方、その内実や伝播については資料翻刻を含め途上にある。本研究は山鹿流兵学の創始者、山鹿素行(1622～85)の兵学書と注釈書を軸に、近世武士道論思想とその系譜、及び資料情報を検討したものである。代表者は各地に点在する山鹿流兵学の教科書『武教全書』と注釈書を調査し、山鹿文庫（国文学研究資料館蔵）と他地域に分けて各資料の基礎情報を公開した。また、これらの資料を基に山鹿流兵学書に表れる「侍」の名誉観と近世武国思想の系譜を考察し、学会・論文にて発表した。資料面では真田家由来の『武道初心集』を翻刻し、岩波文庫版の再考を促す契機を築いた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、近世武士道論研究を兵学書・注釈書の資料調査から進めることで、武士道論の系譜解明のみならず兵学書公開の側面を持つ点にある。近世日本の兵学研究は未解明な部分が多く、研究者間の共有も途上にあった。かかる課題の中で、全国的な調査を進め資料の基礎情報を公開発表し、山鹿流兵学の伝播状況の道筋を検討したのは、兵学思想だけでなく日本学研究に資するだろう。また、海外のオンライン研究会にて近世兵学書研究の問題点を提示することで、日本学の発信や海外の研究者との交流機会に恵まれた。一連の活動は兵学思想研究の開拓、海外での日本研究推進につながる契機として意義を持つものである。

研究成果の概要（英文）：Japanese Military Science study in early-modern are in progress while many books established for each school. This research examines early-modern bushido theory, its genealogy, and information, centering on the books on military science by Soko Yamaga (1622-85), the founder of Yamaga-school military science. The representative researched the textbook "Bukyo Zensho" and commentaries on Yamaga-school scattered throughout the region, divided them into Yamaga Bunko (collected by the National Institute of Japanese Literature) and other regions, and released the information of each material. In addition, based on these materials, I examined the honor of 'samurai' and the genealogy of early modern military country thought that appeared in the Yamaga school, and presented at academic conferences, papers. In terms of materials, I reprinted "Budo Shoshinshu", which inherited in the Sanada family, and made an opportunity to reconsider the Iwanami version.

研究分野：思想史

キーワード：兵学 武士道 山鹿流兵学 山鹿素行 日本思想史 教育思想史 大道寺友山

1. 研究開始当初の背景

近世武士道論研究は、近年倫理思想史のみならず地方史の分野から土風の振起を説いた武士教育のほか、軍記物語などを用いたアプローチ、近現代の「武士道」解釈等、多角的に検討されている。特に武士道論を検討する際、個々のイメージだけではなく歴史的検討の必要性を訴えた佐伯真一の論考(「武士道」研究の現在 歴史的語彙と概念をめぐって)(『武士と騎士 日欧比較中近世史の研究』〔思文閣出版、2010〕所収)は武士道論の研究動向に対する提言として首肯できる。ただし武士道論研究を歴史的に検討する際、その有効な手法については未だ見出せてはいない。その背景に「武士」の位置づけがある。

「武士」は地域支配役割をになう主君から御家に仕える家臣層、さらには農村に居を構える在郷の足軽に至るまでの総称を示し、一元化できない。それを御家に仕える家臣として一本化し、統一的な教訓である「武士道」が生まれた経緯がある。そのため「武士道」と一言でいっても、どの階層に向けた教訓なのかを問わねば、その内実は明らかにできない。もう一つは武士道論の系譜である。近年は武士教訓書の発掘自体行われているが、いずれも単発の教訓紹介が目立つ。ここに系譜のみえにくさがあり、武士道論の展開を検討しにくい現状がある。

2. 研究の目的

以上の背景や課題を打開するために、本研究では以下の目的を設定した

- (1)近世武士道論の系譜をみるために山鹿流兵学関連資料に焦点を定め、山鹿流兵学の教科書として素行が大名への講義に用いた『武教全書』を中心に資料調査を進める。
- (2)『武教全書』の注釈書から「将」「侍」等の武士教訓を抽出し、素行及び後世の山鹿流兵学者が、いかなる解説を施したか検討することで、近世武士道論の一系譜を探る。
- (3)戦前の武士教訓書を見直すために山鹿素行の弟子、大道寺友山『武道初心集』(岩波文庫、1943)の書誌情報を再考する。

3. 研究の方法

上記の目的のために以下の研究手法をとった。

- (1)国書データベース・各図書館・博物館等の目録を活用し、全国に点在する『武教全書』の注釈書(『武教全書聞書』・『武教全書解』等)を中心に兵学関連資料を閲覧・撮影した。また、国文学研究資料館特別コレクション山鹿文庫蔵(以降、「山鹿文庫」と表記)の『武教全書』及び関連・注釈書を閲覧し、適宜撮影した。
- (2)『武教全書』の注釈書を精選し、山鹿流兵学内にて語られた「主」「将」による兵卒統率、さらに兵卒の名誉意識等の教訓を抽出・検討した。
- (3)真田宝物館蔵真田家由来の『武道初心集』(真田宝物館蔵)を閲覧・撮影し、岩波文庫版が底本とした大平喜間多旧蔵本と比較し、翻刻作業を行った。

4. 研究成果

(1)研究の主な成果

大村市歴史資料館・上山市立図書館・松浦史料博物館等、全国的な資料調査を通して『武教全書』の注釈書を精査し、資料の基本情報を紹介した上で、一部注釈書同士が共通する点を西安日本学研究会にて発表、活字化につなげた。『武教全書』の注釈書は膨大なため、山鹿文庫の蔵書と他地域の注釈書に分け、2年かけて公表した。これらの資料調査と並行して『武教全書』に表れる武士層(「主」「将」「士」)がそれぞれ学ぶ教訓の内容を取り上げ、各々の「武士」の役割の違いや名誉獲得の諸相を明らかにした。また、素行存命時の目録『積徳堂書籍目録』と、19世紀に平戸藩内にて成立した目録『積徳堂御蔵書目録』を取り上げ、両書の蔵書情報と比較し、さらに現目録も用いた現存確認も行った。上記の資料調査のほか『山鹿語類』にみえる素行の経世論を取り上げ、遊民による新田開発や「民家の子女」による副産物の栽培等、経世策の内実を明らかにした。

資料翻刻面においては真田宝物館蔵真田家由来『武道初心集』を活字化し、岩波文庫版との違いを明らかにした。また、八戸市立図書館・竹田市立歴史文化館の調査を通して、原本系の『武道初心集』を発見し、今後の諸本研究に新たな道筋を見出せた。

(2)得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

近世武士道論の問題点と、それに対する研究方法として兵学思想が果たし得る役割について、国内・国外を問わず研究発表を行った。コロナ禍のためオンラインを軸として、海外では西安日本学研究会、インドネシアの研究会にて発表し、海外の研究者とともに日本学の今後の展開や資料公開のあり方について、共同研究を含む関係性を構築できた。また、地域活性化の一環として赤穂山鹿素行研究会主催のもとで講演し、山鹿素行の学問的思想を赤穂の歴史だけでなく現代の教育思想史の中で位置づける必要性を確認した。

また、『武道初心集』の基礎的研究として原本系写本の翻刻を行うことで、戦前発行の岩波版

『武道初心集』の誤謬を明らかにした。『武道初心集』は岩波文庫からの刊行後、文庫版を基にした翻訳や解説書等がたびたび発表されてきたが、本翻刻により『武道初心集』における文言自体の再考を促す成果につながった。このほか日本思想史学会大会内の「思想史の対話」研究会にて「日本思想史上の国・国家意識」の共通論題に参加し、近世兵学者が主張した「武国」論を提示・発表した。他分野の若手研究者との対話・発表を通して、個人の武士教訓が「武国」意識にまで結びつく「武」の重層性を取り上げる契機となった。

(3) 今後の展望

本研究の資料調査ではあえて山鹿流にこだわらず、諸流派の兵学関連資料の閲覧・撮影も心がけた。その結果、山鹿流兵学資料の他、同地域において長沼流兵学書の『兵要録』、北条流兵学の『兵法雄鑑』など、一流派に限らない数種類の兵学資料を所蔵する事実が判明した。

これらの発見を経て、一連の所蔵資料が示す史料情報や思想展開等、山鹿流兵学と他流派の兵学知との関連などを問い直す契機になった。他流派の兵学思想の検討については今後の課題だが、新たに見出した資料検討を段階的に進めることで近世の武士倫理思想のほか、武術・武器・城築等、兵学思想から多様な分野を総合的に考察する萌芽ともなるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 26
2. 論文標題 【史料翻刻】真田宝物館所蔵 真田家伝来『武道初心集』(上)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 書物・出版と社会変容	6. 最初と最後の頁 101 130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 21
2. 論文標題 山鹿素行の経世論再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本経済思想史研究	6. 最初と最後の頁 23 39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 37
2. 論文標題 近世武士の名誉観 山鹿素行『武教全書』と注釈書を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本思想史研究会会報	6. 最初と最後の頁 14 27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 53
2. 論文標題 山鹿文庫研究 - 嘉永本『積徳堂御蔵書目録』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本思想史研究	6. 最初と最後の頁 116 152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 27
2. 論文標題 【史料翻刻】真田宝物館所蔵真田家伝来『武道初心集』（中）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 書物・出版と社会変容	6. 最初と最後の頁 125 163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 28
2. 論文標題 【史料翻刻】真田宝物館所蔵真田家伝来『武道初心集』（下）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 書物・出版と社会変容	6. 最初と最後の頁 69 90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 28
2. 論文標題 山鹿素行『武教全書』注釈書考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 書物・出版と社会変容	6. 最初と最後の頁 9 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中嶋英介	4. 巻 29
2. 論文標題 国文学研究資料館特別コレクション・山鹿文庫蔵『武教全書』考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 書物・出版と社会変容	6. 最初と最後の頁 161 179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世武士と「死」の語り-兵学書『武教全書』の視点から
3. 学会等名 西安日本学研究会 第24回 月例会(web開催) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 山鹿素行研究 その経世論と理想的世界
3. 学会等名 岡山大学オンライン講演会 (web開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世武士教訓書にみえる「武士」の諸相と名誉意識
3. 学会等名 日本経済思想史学会 第31回全国大会(web開催)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 国文学研究資料館山鹿文庫所蔵『武教全書』の基礎的研究
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会 第13回年次大会 (web開催) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 武教全書関連資料の基礎的研究
3. 学会等名 第27回 西安日本学研究会 (web開催) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世兵学書は何を語るか 山鹿流兵学を手がかりに
3. 学会等名 歴史文化研究会 月例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 国文学研究資料館山鹿文庫蔵『惟揚庫書籍目録』の蔵書とその周辺
3. 学会等名 日本思想史研究会月例会 (web開催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世日本の「武国」構想と素行学
3. 学会等名 日本経済思想史学会全国大会第32回全国大会 (web開催)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世兵学書の可能性
3. 学会等名 インドネシア日本文学学会第1回全国セミナー（web開催）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 山鹿素行の教育思想
3. 学会等名 山鹿素行生誕400年記念講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世兵学者の「武国」論
3. 学会等名 日本思想史学会全国大会「思想史の対話」研究会 日本思想史上の国・国家意識（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中嶋英介
2. 発表標題 近世侍思想からみた忍者教訓
3. 学会等名 西安日本学研究会 第 37 回例会（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	石橋 賢太 (Ishibashi Kenta)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------